

NEWS RELEASE

平成 20 年 7 月 1 日

電通創立 107 周年記念式典で高嶋社長が挨拶

ー新しい成長へ向けて、「ソリューション」「デジタル」「グローバル」を強化ー

株式会社電通（高嶋達佳社長）の創立 107 周年記念式典が、7 月 1 日（火）午前 10 時から東京本社と、関西、中部の各支社で開催された。東京本社の 107 周年記念式典は汐留本社ビル 1 階電通ホールで行われ、高嶋社長が所信を述べた。要旨は以下のとおり。



創立記念日を迎えた本日、電通は組織改編を行う。この組織改編により、グループ全体の成長と発展を視野に入れた大きな変革に向けて、新たな一歩を踏み出す。なぜいま私たちは改革を必要としているのか、そして、さらなる成長のために進むべき方向はどこなのか、私の思うところを申し上げる。

まず、私たちがしっかりと認識しておかなければならないのは、社会環境の急速な変化であり、さらにその変化が、広く、深く、着実に私たちの仕事のあり方を変えているという点である。ネットやモバイルの急速な発展といったコミュニケーション・テクノロジーの進化により、企業から生活者へのコミュニケーションはかつてない多様な経路を持ち、流通する情報量は飛躍的に増大した。また、少子高齢化といった社会構造の変化は、企業と生活者のコミュニケーションのあり方を大きく変えている。さらには、環境問題や企業倫理など、企業の社会的責任に関する生活者の意識は、非常に高まっている。多くのクライアントが、このような生活者の変化を実感し、これまでのコミュニケーションのあり方を変えようとしている。

これからの電通グループには、変化する生活者とクライアントの視点に立ち、コミュニケーション課題を深く理解し、コミュニケーションをデザインすることが必要である。マスメディアのみならず、インタラクティブ、プロモーション、コンテンツなど、あらゆるコミュニケーションの可能性を追求し、最適な「ソリューション」を導き出すことができないといけない。

この「ソリューション」の強化こそが、私たちの成長の基盤であり、そのためには、生活者のライフスタイルを急速に変えている「デジタル」領域への取り組みが必須となる。さらに、多くのクライアントが海外での事業を拡大している現在、私たちのソリューション能力を、成長の場である「グローバル」領域において、いかに発揮するかという点も重要である。今回の、電通の組織改編は、これら「ソリューション」「デジタル」「グローバル」という 3 つの柱を強化し、「新しい成長モデル」へと電通グループを変えていくための第一歩である。

「ソリューション」については、現在電通のさまざまな部署に分散している機能を集約し、専門性の強化を図るとともに、グループ全体として統合的なコミュニケーション・デザインを実現できる体制へ向け、再編を行った。この「専門力」と「統合力」こそ、電通グループの優位性である。

また、「デジタル」領域では、新たなビジネスモデルを生み出すために、外部企業との連携や投資をよりダイナミックに実行していくとともに、専門的な能力を有する人材の確保や育成、そしてデジタル技術への取り組みを積極的に進めていく。

さらに、「グローバル」においても、国内と同レベルの統合的なソリューションを提供できる体制を目指す。まずは、ロシア、中国、インドをはじめとするBRICs諸国を中心に、営業体制の基盤を早急に整備する。

しかし、組織や制度を変えれば変化への対応が自然にできるわけではない。「新しい成長モデル」を確立するためには、私たち一人一人が提供するサービスの付加価値を高め、「収益力」に対する意識を持つこと、また、今月から、直轄の組織としてインキュベーション室を新設し、新規事業の育成やテクノロジー開発に取り組んでいくこととしたが、大切なのは、グループのあらゆる組織において、常に新しいアイデアを考え、「イノベーション」を実現させるという企業風土を育んでいくことである。

昨今の、世界経済の動きや社会構造の変化は、企業に数多くの課題を示している。とくに地球環境問題は、すべての企業にとって極めて重要なテーマである。今月から、社内に「環境戦略会議」を設置するが、今後もグループ全体で、この問題に、よりスピードを上げて取り組んでいきたい。皆さんが持てる力を存分に発揮することによって、この大きな変化の波を必ず乗り越え、未来を拓いていくことができると、私は確信している。共に、新しい時代の電通グループをつくりあげていこう。

以上